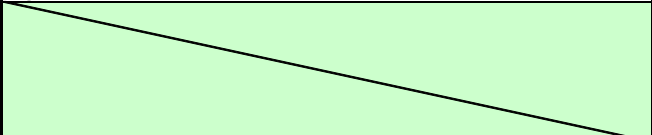
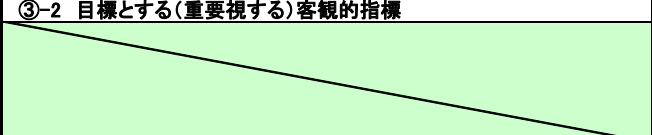


組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：三朝医療センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
<p>1. 超高齢化社会に対応できる医師および医療従事者を育成するために、学生・卒業研修医ならびにコメディカルに対する教育環境の体制整備を進めるとともに、教育プログラムの開発を目指す。</p> <p>2. 独立行政法人日本原子力研究開発機構形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同で、低線量放射線環境安全・安心工学研究教育において、当該分野に精通した技術者・研究者・医療従事者を育成を目指す。</p>	<p>1. 超高齢化社会に対応できる医師および医療従事者を育成するために、医学部学生2名、保健学科学学生17名、理学療法士科臨床実習生3名を受け入れ教育を行った。</p> <p>2. 独立行政法人日本原子力研究開発機構形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究(極微量ウラン影響効果試験)を継続し、その成果を学会・論文に発表するとともに、低線量放射線環境安全・安心工学教育に参画した。さらに、それに関連して、広島市立大学、広島工業大学、広島大学の共同による「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」(情報医工学プログラム)にも参加した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
<p>1. 鳥取県中部地域において、医療連携体制を充実し、老年期疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など)を対象とした地域医療の質の向上を図る。</p> <p>2. チーム医療の積極的取り組みを行うことによって、患者の生活の質中心の医療に心がけ、高齢者にとってより安全・安心な医療の提供に努める。</p> <p>3. 温泉施設の有効活用を行うために、医療の多面的利用を促進する。温泉地滞在者を対象として、医学的アドバイスおよび、必要に応じて温泉療法を行うことによって、観光型から滞在型保養地へ転換し、地域活性化および病院経営改善への貢献に努める。</p>	<p>1. 医療連携体制を充実し、老年期疾患の中で、特に慢性呼吸器疾患および肝疾患において、鳥取県中部地域では中心的役割を担った。慢性呼吸器疾患に対して、在宅酸素療法30名、在宅人工呼吸療法7名の実績を有するとともに、肝疾患においては、肝炎専門医療機関に指定されている。</p> <p>2. チーム医療の積極的取り組みを行うことによって、患者のQOL(生活の質)を重視した医療を実践した。その評価として、本年度1月期までに入院・外来患者を対象とした患者満足度アンケートを実施し、昨年度と比較した。入院では、89.0%→92.7%と昨年を上回る良好な結果が得られている。外来では、91.1%→87.5%と満足度は若干低下傾向ではあるが、おおむね良好であった。</p> <p>3. 温泉施設の有効活用を行うために、三朝町では平成22年度より産官学医が連携して、新たな滞在型保養プランとして「現代湯治・健康増進滞在プラン」を展開している。当初より、三朝医療センターはそのプランに協力しているが、本年度は、よりよいプランの確立および三朝温泉の発展に寄与することを目的として、「現代湯治」への参加による精神的リラックス効果および温泉加療環境の衛生管理法について調査・研究を実施するとともに、研究参加者の健康管理に関する助言を行った。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
	
【総括記述欄】	
<p>三朝医療センターは、平成24年3月31日で入院機能を休止し、4月1日以降外来診療のみで存続することが決まっている。このことによる医療機能の補完として、隣接する三朝温泉病院をはじめとする鳥取県中部地域の病院との連携が特に重要であり、患者のニーズをよく検討した上で推進していかなければならない。さらに、地元三朝町などの期待が大きいことから、本学地球研の研究と医療分野との融合について検討していく必要がある。しかし、業務縮小による人員削減が実施されることが決定しており、医師をはじめとする医療スタッフのモチベーションの低下が懸念される。4月以降の業務については、医療スタッフのモチベーションが維持・向上できるような外来診療体制を確立する必要がある。</p>	